

共同研究

わが国における幼児保育史

幼児保育史共同研究委員会

まず山下俊郎委員長が、この共同研究の意図された事情と研究計画の概要について紹介をおこなった。ついで小委員会の主任である村山貞雄委員が実際の研究の経過について、現在までの経過を具体的に紹介した。つづいて小委員会のおおの委員が研究を簡単に紹介した。

まず岡田正章委員は、わが国の幼稚園開設に至る事情について、文献を中心に各地方における識者の意見をふくめて、制度化以前の状態を紹介した。また制度化された以後における幼稚園の変遷を、制度を中心に考察した。

ついで津守真委員は、文明開化と幼稚園紹介の事情について関信三の研究を手がかりとして、わが国の初期の幼稚園の思想的傾向について発表した。また、わが国におけるフレイベル主義の批判と幼稚園における新教育の展開の状況を考察した。

ついで赤池淳子委員は、わが国の明治時代の幼稚園について、キリスト教によるもの、仏教によるもの、公立のもの、私立のもの、保育所系統のものなど、各系統にまとめて、幼稚園の成立と発展の様相をあきらかにした。

ついで水野浩志委員は、明治期の保母養成の流れを、左の五つに類別して考察した。

- (一) 東京女子師範学校保母練習科の伝統的保母養成方式
(官立一か年コース)
- (二) 全校本科の副次的保母養成方式
- (三) 幼稚園の見習制度による保母養成方式
- (四) 短期講習会的保母の速成方式(五、六か月間)
- (五) キリスト教関係の保母養成機関における専門的保母の養成方式
(二か年コース)

すなわち以上の五つの種類を発生的にながめつつ、おのおの型の流れについて紹介した。
最後に安戸健夫委員は、わが国の保育所について、社会事情や幼稚園教育との関連においてその発生の必要と形式を具体的に説明した。

以上の研究はいずれも、史実の正しい把握と解釈を主眼としたことはもとよりであるが、同時にうずもれた新事実の発見を努力しておこなわれたものである。